

第7回

ヨーゼフ・クライナー博士記念 法政大学国際日本学賞

授賞式・記念講演会

2022年3月9日(水)

受賞者

金 志映 (KIM Jiyoung)

(ソウル大学日本研究所PD 研究員[韓国])

記念講演

「日本文学の〈戦後〉と
変奏される〈アメリカ〉」

*講演は日本語で行われます

・授賞式	17:00～17:20
・講演会	17:30～18:30
・開催方法	Zoomによるオンライン開催
・参加費	無料
・参加方法	事前申込が必要です

受賞作

『日本文学の〈戦後〉と
変奏される〈アメリカ〉』

(ミネルヴァ書房、2019年)

◆概要◆

本書は、文化冷戦の代表的な事例として、ロックフェラー財団の文学者留学制度を取り上げ、1953年に文学者を対象として1年間の留学を支援する創作フェローシップ(Creative Fellowship)の招きを受けて渡米した戦後を代表する文学者たちが、どのような影響を受けたかを分析したものである。

著者は米国ニューヨーク州スリーピーハーロー所在のロックフェラー財団文書館(Rockefeller Archive Center)で調査発掘した新資料をも紐解きながら、占領期から冷戦期にかけて文化領域をめぐる政治的な磁場のなかで、戦後文学における「アメリカ」の表象がどのように形作られていったのかを多角的に考察した。具体的には、以下の三つの層において考察を試みた。第一に、占領期から講和後の文化冷戦期にかけて、アメリカが日本の文化や文学にどのように介入したかである。第二には、アメリカによる文化攻勢が働くなかで、文学者たちがどのように「アメリカ」を経験し、「アメリカ」への態度を形成していったかである。第三には、「アメリカ」表象史としてみたとときに、戦後の文学作品のなかの多面的なアメリカ・イメージがどのように表れ、変化したかを明らかにすることである。アメリカ側の対日文化攻勢の動きと、日本側の表現の軌跡を対置させることにより、文化冷戦をアメリカによる一方的なプロパガンダとしてみる観方を脱し、日米相互の力学が浮かび上がる構成とした。

以上の考察を通して本書は、アメリカによる冷戦下の文化的攻勢がポスト講和期の文学空間に奥深く入り込んでいたことを示すとともに、「アメリカ」の表象をめぐる日米間のせめぎ合いの諸相を浮かび上がらせる。またより大きくは、日本の「戦後」の在り方や、その形成における「アメリカ」の意味を問い直す。



お申込みいただいた方にもみ接続先をお知らせいたしますので必ず事前申込をお願いいたします。
申込サイト: <https://forms.gle/7okLGVSaxhbL6xcH7>